

令和6年度 学校評価報告書

4 段階 評価	A	ほぼできた	3.2 以上
	B	概ねできた	2.6～3.2未満
	C	やや不十分	2.0～2.6未満
	D	不 十 分	2.0 未満

島根県立江津工業高等学校

※アンケート質問項目の評点化： 4:強くそう思う 3:そう思う 2:あまりそう思わない 1:全くそう思わない ※少数第2位を四捨五入して表示。 ※() 令和5年度

グランドデザイン				評価計画				自己評価				学校関係者評価		改善策
学校像		生徒像	重点目標	評価項目	達成のための方策		生徒	保護者	教職員	評価	結果（抜粋）と課題	コメント（抜粋）	評価	
地域産業を担うテクノロジージストの育成	・生徒自身が自らの成長を実感できる学校	・地域産業を担う人材を育成する学校	人権感覚の涵養	他者との協働活動を育む指導	・企業や大学等の進路情報を、生徒の協働活動によって共有することで、自らの進路選択の手がかりにする。 ・「地域の人から学ぼう」の活動に体験的・対話的な要素を加える。 ・地域企業との協働探究学習を通して、多様な人との対話的活動を行う。 ・生徒会を中心として通学路クリーンアップ活動を実施し、各部活動にも積極的に参加を促し、地域社会に貢献する。		3.1 (3.2)	3.2 (3.2)	3.3 (3.1)	A (B)	【結果】 ・地域で活躍する方を招き、「地域の人から学ぼう」を年8回実施。多様な価値観を学ぶ機会を提供した。 ・地域企業の担当者を招き、協働探究学習を実施。対話を通じて企業の魅力を発見した。 ・キャリア・パスポート記入に協働活動を組み込み、自己理解や他者理解を促進した。 【課題】 ・生徒の主体性や地域連携活動の持続性の確保。	・協働学習を通じて生徒が人や企業について知り、地元の魅力を再認識することで成長できた。 ・自治会離れや地域住民との関係性が薄れる中、社会人としての行動規範や人間性を高めるために、地域連携活動は高校生にとって重要である。 ・地域の方や企業との交流を今後も継続して実施することを希望する。	A (A)	・地域連携活動を継続的に実施し、生徒の主体性を育むとともに、地域住民や企業との交流を深めることで、持続可能な地域貢献と社会人としての行動規範を強化する。
				人権意識を育む指導	・每学期人権ホームルームを実施し、その様子を情報発信する。 ・生徒・教職員・保護者対象の人権教育講演会を実施する。 ・道德教育（人権）の視点をふまえた授業を定期的に実施する。 ・いじめについて年間をととして生徒からの相談を受ける体制を整備し、いじめの予防および早期発見に努める。		3.1 (3.1)	3.0 (3.0)	3.0 (2.9)	B (B)	【結果】 ・いじめについて年間をととして生徒からの相談を受ける体制を整備し、いじめの予防および早期発見に努めた。 ・自己理解、他者理解の学びを深めるため、江津市ライフプラン支援事業を活用したエゴプログラムの実施や、スクールカウンセラーによる教育プログラムを実施した。 【課題】 ・SNS上等におけるふるまいの検証。	・いじめに関するアンケートを実施し、現代社会に潜む問題解決に向けて人権問題に正面から取り組んでいる。 ・他者を理解し、思いやる支援が求められている。 ・いじめやハラスメントに対する理解や認識を高めてほしい。 ・人権教育が進んでおり、思いやりのある生徒が見られる。	A (A)	・SNS上でのふるまいや人権問題に対する理解を深めるため、いじめやハラスメントに対する認識を高める教育を行い、他者を思いやる意識を育む取り組みを継続する。
			学習力の向上	探究的な学びを育む指導	・地域企業との協働探究学習を通して、情報活用能力の向上と課題解決プロセスを学習する。		3.3 (3.2)	3.2 (3.3)	3.1 (3.1)	A (A)	【結果】 ・地域企業との協働探究学習を通して、情報活用能力の向上と課題解決プロセスについて学習を行った。 ・3年生の課題研究等において、しまね海洋館、第一稀元素化学工業株式会社、古民家等との連携を図り活動を実施した。 【課題】 ・地域企業との協働探究学習の成果の検証。	・課題研究を通じて校外に目を向け、探究活動が生徒と地域の連携に繋がっている。 ・地域貢献活動を通じて、生徒がやりがいを感じていると考えられる。 ・協働を意識した活動の継続が求められている。 ・評価者が高校生だった時代には、このような取り組みはなかった。 ・地域企業や地域コミュニティとの協働活動は素晴らしい。	A (A)	・地域企業との協働探究学習の成果を検証し、地域貢献活動を通じて生徒のやりがいや主体性を引き出すとともに、協働を意識した活動を継続する。
				主体的な学びを育む指導	・単元振り返りシートなどを活用し、学習の振り返り活動を確実に実施し、家庭学習の充実や主体的な学びを実現する。		2.9 (3.0)	2.8 (2.9)	2.8 (2.6)	B (B)	【結果】 ・単元振り返りシートなどを活用し、学習の振り返りや家庭学習の充実を図ったが、家庭で十分に学習しているとは言えない状況であった。 ・主体的に学習に取り組む態度が身につくよう、資格取得に向けた年間スケジュールを示したり、計画的に補習を実施した。 【課題】 ・主体的な学びにつながる学習支援の検証。	・振り返りを通じて生徒が学び、新たな目標に役立てている。 ・学習支援の継続が求められている。 ・基礎的学習がどのように行われているか、3年間を通して何を学んだのかの評価基準が見えていない可能性がある。	A (A)	・振り返りを活用して生徒の学びを深めるとともに、学習支援を継続し、学習の評価基準を明確にして、3年間を通して何を学んだかを見える化する。
	・地域社会や保護者の期待に応えうる学校	・積極的に社会に貢献する人材を育成する学校	社会人基礎力の向上	挨拶や身だしなみ、掃除などの指導	・身だしなみ指導の結果を生徒・教職員全体に周知し、現状を共有する。 ・生徒会を中心に校則について協議し、必要に応じてその見直しを検討する。		3.1 (3.2)	2.9 (3.1)	2.5 (2.8)	B (B)	【結果】 ・身だしなみ指導の結果を生徒・教職員全体に周知し、現状を共有した。 ・望ましい生活習慣確立を目指し、生徒と保護者対象のがんケアサロン講師によるがん教育講演会を行った。 【課題】 ・校則について生徒・教職員・保護者の考えの共有。	・社会人の基本である挨拶や身だしなみの定着を目指し、生徒に共通認識として指導を行っている。 ・生活習慣について一貫した指導を継続することが求められている。 ・学校内での指導はできていたが、家庭内での指導が不十分だった可能性がある。 ・進んで挨拶ができる生徒が多いと感じられる。	A (A)	・挨拶や身だしなみ、掃除、校則遵守について、生徒・教職員・保護者間で共通認識を深め、継続的な指導を行う。
				時間の管理と計画的な行動を育む指導	・学校安全の日を周知するとともに、生徒に校内安全点検を実施させることで、危険予知に関する訓練を実施する。 ・作業が伴う授業において、生徒自身の作業能力の把握と改善に向けた指導をおこなう。 ・実習前のミーティングを実施する。		3.0 (3.1)	2.8 (3.0)	2.9 (2.8)	B (B)	【結果】 ・作業が伴う授業において、生徒自身の作業能力の把握と改善に向けた指導を行った。 ・実習前のミーティングで、授業の流れや課題等の締切について共通認識を図っておくことで、時間を意識した行動がとれるようになった。 【課題】 ・生徒個々への効果的な支援。	・時間管理の重要性を継続して指導している。 ・計画とその管理の必要性について指導をお願いしたい。	A (A)	・生徒個々に合わせた効果的な時間管理と計画的行動を支援する。
				危険予知能力と技術力・判断力が身につく指導	・学校安全の日を周知するとともに、生徒に校内安全点検を実施させることで、危険予知に関する訓練を実施する。 ・学校安全の日に「命の大切さを学ぶ教室」を開催し、日頃の安全意識を高める。		3.3 (3.3)	2.9 (3.1)	3.1 (3.1)	B (A)	【結果】 ・生徒による安全点検活動を実施し、危険予知能力を育成した。 ・学校安全の日に「命の大切さを学ぶ教室」を開催し、日頃の安全意識を高めた。 【課題】 ・実習における服装や安全作業の不徹底。	・作業中の事故に対して問題意識を持ち、継続的な指導を行っている。 ・自分を守るための訓練の重要性を強調してほしい。 ・単に事故を避けるだけでなく、危険予知能力や判断力は社会生活において重要である。 ・事故や怪我を防ぎ、自分の身を守る意識の向上が必要である。 ・訓練と体験が重要である。	A (A)	・実習における服装や安全作業の徹底を強化し、危険予知能力や判断力を養う訓練を通じて、事故や怪我を防ぐための自分を守る意識の向上を図る。
			キャリア教育の充実	生徒の進路意識を高める指導	・見学の事前・事後指導を充実させ、生徒自身の進路意識の高揚につなげる。 ・キャリア・パスポートを活用し、学期ごとに振り返りを行うことによって、自己の成長や強み、適性を探る。		3.2 (3.2)	3.1 (3.1)	3.1 (3.2)	B (A)	【結果】 ・1・2年生対象の企業・学校・官公庁の説明会を開催し、企業理解をすすめるとともに、進路選択の手がかりとなる機会を設けた。 ・キャリア・パスポートを活用し、学期ごとに振り返りを行うことによって、自己の成長や強み、適性を認識する手立てとした。 ・展示用企業ブースのメンテナンスに努め、企業理解に活用した。 【課題】 ・進路活動における地域と生徒の考えの乖離。	・キャリア・パスポートを活用し、生徒が進路選択のツールとして役立てている。 ・高校生に多種多様な職業選択肢を知ることが視野を広げることにつながり、今後も継続して実施することが望ましい。 ・企業見学会を積極的にに行い、生徒の判断材料を増やし、就職への意識向上に繋がった。 ・教員の資質向上に向けた研修の実施が求められている。	A (A)	・進路活動における地域と生徒の考えの乖離を解消するため、地域との連携を強化し、多様な職業選択肢を提供することで生徒の進路意識を高める。キャリア・パスポートを更に活用した進路指導を行う。
				進路実現に向けた指導	・担任と連携し、ホームルーム活動などで進路の手引きを活用し、3年間の見通しを持って学校生活を送る。 ・進路ガイダンス（就職・進学）を各学年で実施する。 ・求人票管理システムを活用し、生徒の就職活動を支援する。 ・ICTを活用して進学に関する最新情報を提供する。 ・数学はTTを導入して授業における生徒の学びを支援し、英語は放課後の資格取得支援を充実する。		3.2 (3.3)	3.2 (3.2)	3.3 (3.3)	A (A)	【結果】 ・数学ではTTを導入して授業における生徒の学びの支援を20時間行った。また、英語では資格取得支援を充実するため、放課後の補習授業を29時間行った。（12月時点） ・資格試験に向けて外部指導者と協力しながら学習活動に取り組んだ。 【課題】 ・難易度の高い資格試験受検者数の減少。	・資格取得に向けた学習指導と基礎学力向上のための受験支援が行われている。 ・地域の協力を活用し、これらの取り組みを継続することが求められる。 ・資格試験は生徒にとってスキルアップのチャンスであり、受験に向けての後押しが必要である。	A (A)	・難易度の高い資格試験の受検者数を増加させるため、補習等の受験支援を強化するとともに、生徒に対するモチベーションの向上と受検への後押しを行う。
				教育活動や部活動、地域とのかわりの発信	・小中学校等への生徒による情報発信機会を計画し実施する。 ・コウギョウを見に行こう、サマースクールを実施し、地域や異校種との連携と情報発信を行う。 ・島の星山登山道整備活動を実施し、協働的な作業を通して、地域の魅力や地域に貢献する奉仕の精神を学ぶ。 ・課題研究、出前授業、地域イベント等を通じて地域の方々との協働活動を実施する。		3.2 (3.1)	3.4 (3.3)	3.6 (3.5)	A (A)	【結果】 ・HPやSNSを4月から12月の間に約250回更新した。 ・コウギョウを見に行こうを3回、サマースクールを3日間、通常行われるオープンスクールとは別に「いわみん」6テーマを実施した。各種イベント参加を通して、生徒主体で地域の方々と協働的な活動することで工業での学びを発信することができた。 【課題】 ・情報発信の効果の検証。	・各種情報チャンネルを活用し、多様な学校の情報発信が行われている。 ・大変な活動ではあるが、これらの情報発信を継続することが求められる。 ・地域の方々との活動を通じて素晴らしい活動ができたと感じており、忙しい中で丁寧に企画して実行している。 ・入学生の確保に向けた取り組みの実践が求められる。	A (A)	・地域との関わりや学校の活動をさらに効果的に伝えるため、引き続きホームページやSNSを活用した継続的な情報発信を行い、入学生確保に向けた取り組みを行う。
				生徒の安全を考えた環境整備の充実	・修繕予算には限りがあるため、生徒や教職員の安全に関わるものの、教育活動に必要な不可欠なものを優先して修繕に取り組む。		3.1 (2.9)	3.4 (3.1)	3.0 (3.0)	B (B)	【結果】 ・修繕予算には限りがあるため、生徒や教職員の安全に関わるものの、教育活動に必要な不可欠なものを優先して修繕に取り組んだ。 ・生徒による校内安全点検を実施することで危険予知に関する訓練を実施した。 ・安全点検後の積極的な修繕を行った。 【課題】 ・新設校開校を見据えた整備。	・生徒に配慮した環境整備に取り組み、学校運営が行われている。 ・常に安全性を最優先にした整備が求められている。 ・限られた予算の中で、安全環境の整備に努めることが重要。 ・自転車通学生100％ヘルメット着用運動を展開する。	A (A)	・新設校の開校を見据え、限られた予算の中で生徒の安全を最優先にした環境整備を計画的に行い、常に安全性を確保できよう努める。